

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : スタートアップ企業と考えるサステナブルな社会 (環境)
授業特別協力者名 : 熊谷 溪司 氏・守矢 優衣 氏
実施日時 : 2022年10月25日(火) 5時限
担当教員名 : 武石 智香子
授業科目名 : 演習Ⅱ
履修者数 : 4名

実施結果

熊谷溪司氏より、氏が代表を務める CACTUS TOKYO というスタートアップ事業のコンセプトと、皮革産業から見る ESG についてお話しいただいた。氏はまず、次のようなデータを紹介した。アパレル業界の CO2 排出量は、全産業の 4-10%と極めて高い割合を占めていること。アパレルビジネスから排出される CO2 の9割以上がものづくりの行程で排出されること。そして皮革産業に焦点を当て、自然素材である皮革製品においても、そのままと腐る「皮」を、腐らない「革」に変える「鞣し工程」で環境負荷が発生することを説明した。そこで植物由来のレザーに着目した氏が、サボテンレザーのスタートアップに至るまでについてプレゼンがなされ、学生からの質疑を受けた。

守矢優衣氏は、中央大学総合政策学部の卒業生として学部時代の話を入りに、パートⅠ・パートⅡの2つのプレゼンを行った。氏はパートⅠで、氏の所属する ESG 経営の取り組みの概要を説明し、これからの企業活動は環境への配慮なしにはあり得ないことを強調した。つぎに話はラオスだけでも未だに 8000 万個以上の不発弾が残っていることにうつり、それを撤去するのに 100 年以上かかることを、会場とのエンゲージメントを交えながら説明した。Nowar Factory は不発弾をジュエリーにすることで、戦争廃材を資源に変え、ラオスの鍛造職人とイタリアの金銀細工職人に雇用を創出しつつ、消費者とこの問題意識を広く共有するスタートアップの取り組みであることが伝えられた。プレゼンの後、学生との質疑応答が行われた。

講演は教室における対面、オンライン上の参加者もいる、ハイフレックス方式で実施された。

自己紹介・会社紹介



熊谷 溪司 | KEIJI KUMAGAI

株式会社CACTUS TOKYO 代表取締役
1994年生まれ、北海道出身
2017- 株式会社荏原製作所にて経営企画/DX推進を担当
2021- CACTUS TOKYO創業



株式会社CACTUS TOKYO

サボテンレザーのオリジナル製品ブランド。
「もっと地球環境に良い選択をしたくなる、手ごたえある購買体験」をコンセプトに活動。